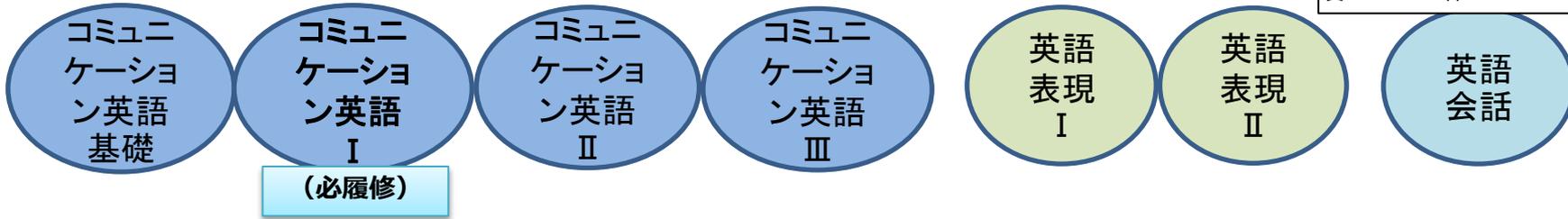


外国語
現行科目



課題

発信力が弱い

- ・生徒の英語力について、4技能全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
- ・英語の学習意欲に課題
- ・言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
- ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

育成すべき
資質・能力等

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う

4技能総合型(必修科目を含む)の科目を核とする

発信能力の育成をさらに強化する

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ(仮称)

- ・4技能を総合的に育成（受信・発信のバランス）
- ・明確な目標（英語を用いて何ができるようになるか）を達成するための構成・内容
- ・複数の技能を統合させた言語活動が中心
- ・「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着（高等学校への橋渡し）を含む。

学習指導要領に掲げられる資質・能力を確実に育成するための指標形式の目標を段階的に設定

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(仮称)

- ・「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする技能統合型の言語活動

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し
⇒ 総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(仮称)、ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ(仮称)、エッセー・ライティングⅠ・Ⅱ(仮称)

改訂の方向性(案)

Ⅰ↓Ⅲへ内容の高度化・話題の多様化

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表。

英語教育の抜本的強化のイメージ

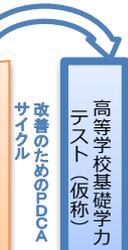
※具体的な小学校の授業時数については、年内~年明けを目途に教育課程全体の構成とともに検討を進め、一定の方向性を提示

(秋以降、専門的に検討予定)

新たな英語教育

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

大学や海外、社会で英語力を伸ばす基盤を確実に育成

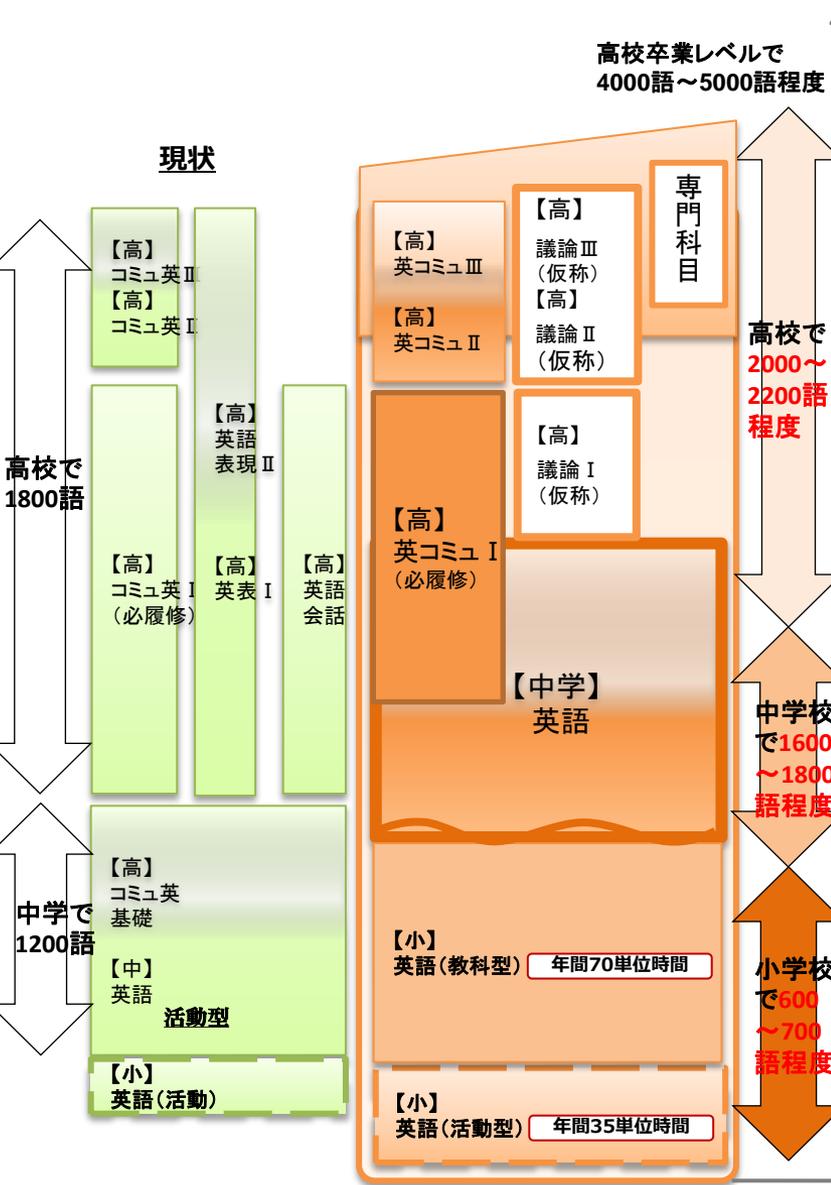
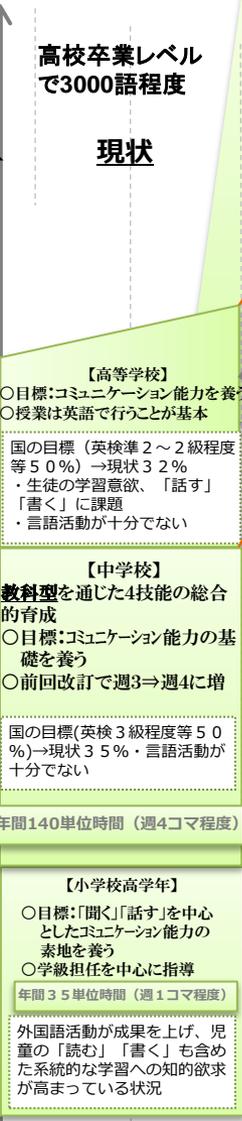


【高等学校】
目標例：例えば、ある程度の長さの新聞記事を読読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする
○幅広い話題について情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりする能力、他者を尊重しながら発表、討論・議論、交渉等ができるコミュニケーション能力を養う
○授業を英語で行うことを基本とするともに、①4技能を総合的に扱う言語活動、②特に、課題がある「話すこと」、「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実

【中学校】
目標例：例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする
○互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を英語で行うことを基本とする
○他者を尊重し、具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。
年間140単位時間

教科型 【小学校高学年】
目標例：例えば、馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする
○相手意識をもって聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりすることについての態度の育成も含めた、コミュニケーション能力の基礎を養う。
○学級担任が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用
教科として系統的に学ぶため、効果的な「繰り返し学習」としてモジュール学習も活用
年間70単位時間 ※

活動型 【小学校中学年】
○目標：相手意識を持って聞いたり話したりすることを中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
○主に学級担任がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とした指導
年間35単位時間 ※



C1
B2
B1
A2
A1

CEFR

(旧)

4技能を総合的, 統合的に育成

英語 I (3単位)

英語 II (4単位)

聞く, 話す中心

OC I (2単位)

OC II (4単位)

(※) OC:「オーラルコミュニケーション」の略

読む中心

ライティング (4単位)

書く中心

リーディング (4単位)

(現行)

必

コミュニケーション 英語基礎 (2単位)

必

コミュニケーション 英語 I (3単位)

コミュニケーション 英語 II (4単位)

コミュニケーション 英語 III (4単位)

4技能の総合的, 統合的な育成の一層の強化

英語表現 I (2単位)

英語表現 II (4単位)

論理的に表現する能力の育成に焦点

身近な話題について英語で会話する能力の育成

英語会話 (2単位)

(新)

必

英語コミュニケーション I (仮称) (3単位)
※中学校との円滑な接続を図るための改善

英語コミュニケーション II (仮称) (4単位)

英語コミュニケーション III (仮称) (4単位)

4技能の総合的, 統合的な育成の一層の強化

論理・表現 I (仮称) (2単位)

論理・表現 II (仮称) (2単位)

論理・表現 III (仮称) (2単位)

論理的に表現する能力の育成に焦点

【専門教科(英語)】

総合英語 I・II・III (仮称)

ディベート&ディスカッション I・II・III (仮称)

エッセイ・ライティング (仮称)

より高度な4技能の育成

より高度な討論・議論をする能力の育成

(※) 矢印は教科内容再編のイメージ